

お茶の水女子大学での思い出

4 か月前、私は遠い国の島に来ました。それは日本です。二年前、誰かが「いつか日本に行く」と言ったら、私は「それは夢だけ。行けるとは思わない!」と返事をしました。しかし、今はここにいます。東京に住んでいます。両親のサポートがあり、この夢がかなえられました。

はじめから様々な気持ちを感じたり、新しい経験をしたり、たくさんの人達に会ったりしました。寮に引っ越す 1 週間前、東京の浅草や上野や秋葉原や渋谷を探検しました。私は本当に興奮していました。たくさんの方に驚きました。例えば、道にゴミがなかったことや面白い建物とか日本人の優しさです。言語の壁は少し問題ですが、日本人は私を助けるために最善を尽くしてくれます。私を驚かせたもう一つの話は、子供から高齢者まで、誰もが自転車で移動していたという事実です。その時、私は「自転車が欲しい!」と考えました。三週間後私は毎日、自転車で大学まで通いはじめました。自転車は今までで一番嬉しくて便利な買い物です。

しかし、際立った欠点は、すべてのアクションに対してあまりにも多くの書類が必要という事実です。これまでに記入したすべてのフォームとドキュメントで、4 つの小説を出版できたはずですが。

寮のことはあまり話したくないです。家賃は安いし、大学まで 30 分しかかからないし、周りにたくさん店もあるし、それは便利です。しかし、建物は本当に古くて、汚いです。お茶の水女子大に対して、まだ 1 日目の感じを覚えています。キャンパスは広くて、美しいと思いました。しかも、秋に紅葉の黄色い葉で、メルヘンにいるように感じました。建物に関しては、モダンで居心地の良いビルと、古くて多くの歴史を持つビルとが奇妙に混ざり合っていて好きです。

オリエンテーションの日に様々な人に出て、多くの情報を受けましたが、全然分かりませんでした。そのため、その日の終わりに泣きました。ロンドンに帰りたかったです。私の日本語のレベルは低いです。ここにいるべきでないとも感じています。大変です。しかしあきらめずに、ロンドンにある私の心地よい場所に戻らないでいることに誇りを持っています。私がここに到着して以来、私は何かを理解できないとき、クラスメイトに助けを求めることを学びました。私は単に自分のその部分を受け入れることを学んでいます。私は、忍耐強くそばにいてくれた友人に感謝しています。

グラウ セッラ・パウラ  
ロンドン大学バークベック

大学の生活について、バレーボールの部活のみんなにこの日本の文化の部分を教えてもらいました。もう一度スポーツをすることやみんなと日本語を話すことは楽しくて、嬉しいです。いつも外国人と遊んでいるので、日本語を話せるチャンスがあまりありませんから。

ざんねんながら、お金がないし、大学で長い間を過ごすし、あまり旅行できません。今まで、京都と奈良にだけもう行きました。とてもきれいでした。2 月にもっと旅行をするつもりです。

まだ様々なトピックについて話すことができませんが、私の経験を全部書いたら、小説が書けます。キム教授が言ったように、人生は経験を生きるためのものです。



グラウ セツラ・ パウラ  
ロンドン大学パークベック

